

(1) AT相談シートを活用してねらいの引き継ぎとフォローアップを行った事例

児童Aは、現在小学部4年生である。24年度に実施したAT相談では、「人とかかわることが好きなので、コミュニケーションの力を伸ばしたい」という担任の願いのもとに、本人にわかりやすく操作のしやすいスイッチの種類、設定（置き場所）、操作方法について検討した。そして、VOCAのスイッチ面にCDを貼ることでスイッチに興味を抱きやすくしたものを使って、コミュニケーションを支援していくことになった。

25年度に替わった担任は、24年度の担任からの引き継ぎ事項にCDを貼ったVOCAの利用があり、保護者の期待も大きかったため、25年度も朝の会で利用して日付の発表活動を課題とし取り組むことにした。しかし、児童Aは、机の上に置かれたVOCAに興味を示さないため、24年度からの指導がうまく継続できないことに悩んだ担任から、相談があった。そこで、フォローアップにて実態の再確認を行い、支援の方法について再検討をすることにした。

AT相談員が、児童Aの朝の会の様子をもとに担任から聞き取りを行うと、音楽が流れると足でリズムをとって聞いている様子が見られるこ

とがわかった。この様子を参考にして連携AT相

談の中で活動を考えていくことにしたところ(図

2)、児童Aが好きな音楽を流す係になると、意

欲的に活動に参加できるのではないかと提案が

あった。そこで、カセットテープレコーダーにB

Dアダプターを接続し、スイッチを使って児童A

の音楽系の活動を支援することにした。朝の会で

取り組んだところ、途中でスイッチを離したとき

には曲が切れることを感じ取り、再び押したり、

曲が終わるまで押し続けたりするなど、スイッチ操

作と状況の変化との関連を理解しながら、活動に参

加できた。さらに、ここでは音楽を聴くだけでなくみんなと楽器の演奏や体操にも参加

してほしいという担任の思いがあり、次の相談でラッチ&タイマーを組み合わせたところ、

係の活動をしながら自分も活動に参加し楽しむことができるようになった。



図2 フォローアップの様子

※ 本事例（特別支援教育教材ポータルサイト掲載事例）は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「B-292 特別支援学校（肢体不自由）のAT・ICT活用の促進に関する研究—小・中学校等への支援を目指して—」（平成26年3月）、52-53に記載された内容である。

